

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300644		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	グループホーム福祉の杜		
所在地	福島県郡山市西田町鬼生田字杉内206		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	平成30年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の小規模多機能居宅介護事業所と連携を図り、利用者様が自由に行き来できるようにしています。
 利用者様の健康面では、訪問看護ステーション・青山医院との連携で急変時も迅速に対応しています。
 小学生の慰問・中学生のボランティアや職場体験での交流があり、童心にかえり楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営推進会議は、地域、家族代表、地域包括支援センター職員のほか第三者委員、市介護相談員も委員となり、幅広い視点で運営面やヒヤリハットへの助言、地域のイベント情報等の紹介があり、運営面や利用者の外出に活かしている。
 2. 重度化や看取りについては、入居時や状況変化時に、家族や利用者に説明を行い看取りの同意を得ている。職員に対しても度々研修や話し合いを行っている。これまで看取りの経験も複数あり、家族も立ち会いながら、落ち着いた対応ができています。なお、夜間については、看護師や管理者が直ぐ駆けつけられる体制も整っており、夜勤の職員や家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、会議時には必ず全員で理念を唱和し、共有、実践に繋げています。	法人理念をもとに前年の状況の振り返りしながら職員全員で事業所目標を策定している。今年目標には「チームワーク」を入れ協調性、共有を心掛けて利用者に笑顔を届けることとしている。笑顔で接することで利用者の表情も明るく実践の効果が表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に利用者様と職員が参加し、地域の方々との交流を持っています。また、小・中学校の行事にも参加しています。職場体験や慰問等で交流できる時間も増えています。	町内会に加入し、芋煮会などの行事に利用者も参加している。また、事業所の敬老会やクリスマス会に町内会の方が家族づれで参加するなど地域の方と交流している。また、中学校の介護体験を受け入れたり、オレンジカフェの開催等交流機会も多く利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェ開催時に介護保険の勉強会を行いました。認知症サポーター養成講座の依頼や、地区の催しにも参加させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	毎回、行事関係・事故ヒヤリはっと等の報告をし、ご意見をいただいております。	地域、家族代表、第三者委員、市介護相談員、地域包括支援センター職員等が委員となり、運営やヒヤリハットへの助言、地域のイベント情報等の紹介があり、運営面や利用者の外出に活かしている。また、事業所が開催するオレンジカフェなどのPRなど参加者の募集面などで協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービス相談員の方が定期的に来所されてご意見をいただくことがあります。また、情報交換会に参加させていただき市の担当の方との情報交換もしています。	介護保険制度の疑義照会など市の担当に相談するとともに行政センター(郡山市支所)や地域包括支援センターとも協力関係が築かれている。また、市の介護相談員も月2回訪れており、その際情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を、一年の勉強会予定にいれ、職員の理解を深める努力をしています。	身体拘束廃止宣言を事業所内に掲示し、職員会議などで注意点を伝えている。言葉による拘束についても利用者が不快に思わないよう不適切と感じた時は注意し防止に努めている。今年度計画した研修が未実施となっている。	研修計画で予定している身体拘束に関する研修が未実施なので早期に行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、勉強会を行い虐待防止に努めています。 職員の言葉がけ、言葉遣いにも気にかけるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が付いておられる利用者様がおりますので関わりを持ちながら学ばせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を読み上げ、質問にはよりわかりやすく説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の時等ご家族様と話す機会を作り、ご意見や要望を伺うよう努めています。	家族からは面会時や電話で要望を聞いている。利用者本人は新聞チラシなどで食べたいもの、行きたいところなど言葉として出ており、それを活かして外食や買い物に出かけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置し職員からの意見・要望を吸い上げるようにしています。 また、個人面談の時間を設ける時もあります。	法人による個人面談があるほか、管理者も気になる職員の面談や相談を受けるなど、悩みや要望を聞いている。職員意見箱も設置しているが意見が入ることは少ない。職員の要望で車椅子に乗ったまま測定できる体重計など備品購入を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度の全体会議には、代表者は必ず出席されています。勤務表も確認されており細かくアドバイスをいただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を定期的で開催して頂いています。 経験年数にあわせて、外部研修を受ける機会を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へ見学に行ったり、情報交換会に参加をし、他事業所との関係作りに努めています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様やご家族様より生活歴を伺い、職員間での情報を共有しより良い関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安・要望を伺い、わかりやすく説明をし、安心できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様にとって必要なサービスは何か、現状を把握し説明させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が、自分の居場所として過ごしていただけるよう、役割を持っていただきメリハリのある生活を送れるよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはお部屋でゆっくり過ごしていただけるよう配慮いたしております。 本人様のご家族様への要望等もお伝えし、共に支え合える関係を築くよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方を行事や誕生会に招待し、関係が途切れないよう努めています。	家族のほか近所の友人も誕生会に招待するなどなじみの関係の継続に努めている。また隣の小規模多機能型居宅介護事業所に通ってくる友人と交流したり、そこで新しい友人も出来るなど関係継続に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話の橋渡しをしたり、席替え等で良好な関係作りの支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙をお出ししています。 退所後のご様子をご家族様より連絡を頂くこともありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の気持ちをくみ取り、職員間で情報を共有し、必要時にはご家族様に報告をし協力を得ています。	入居時に管理者と計画作成担当者が自宅を訪問し、本人や家族からニーズを聞き取っている。また、入居後も生活リズムの把握に努めている。誕生月に部屋担当がじっくり若いころの話や本人の思いを把握する取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様より話を伺い、またご家族様にも確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、職員間の情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議において話し合い、介護計画の見直し、ケアの統一を図っています。	計画作成担当者が本人の希望や家族の意向を聞くとともに毎月のケア会議や部屋担当からの情報を活かして介護計画を作成している。入居時は1か月、その後6か月ごと計画の見直しを行っている。状況変化時は随時見直すなど現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の書式を変更し、記録すべきことを改めて指導しましたが、すべて記録するに至らず、口頭での情報提供が多かったように感じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所内だけでなく、併設の小規模多機能型事業所へ自由に行き来することで、新たな友人を作れるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方々に気をかけて頂き、交流を通じて協力者も増えつつあります。安心して暮らせるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族様と主治医との信頼関係は良好で、急変時には速やかに対応して頂いています。	多くの利用者は協力医療機関の往診を選択している。往診で対応できないときは家族が同行し専門医を受診しているが、家族が遠方の場合や緊急時には職員が同行している。受診結果は家族が付き添った場合は報告を受けるとともに職員が同行した場合は家族に結果を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により、より適切な支援を受ける事ができ、主治医との連携もスムーズに行えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会、病院の相談員とも連絡を密にし、退院後の不安がないよう対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や、身体状況の変化が見られた場合など、その都度ご家族様には確認をしています。主治医を交えて、ご家族様の現在のご意向を伺い、対応させて頂きました。	入居時や状況変化時に、説明を行い看取りの同意を得ている。職員に対して度々研修や話し合いを行っている。これまで看取りの経験も複数あり、家族も立ち会いながら、落ち着いた対応ができた。なお、夜間については、看護師や管理者が直ぐ駆けつけられる体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時に備え、利用者様の情報を整備してあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定・水害時想定など年2回の災害時訓練をしています。併設している事業所との連携を図り、安全に避難できるよう訓練をしています。 今年度は、地域の災害時訓練にも参加しています。	年2回、消防署立ち会いの避難訓練を住民の協力を得て実施するほか通報訓練なども4回独自に行っている。職員間で訓練の際の問題点や課題を話し合い、次の訓練に活かしている。また、地域の防災訓練にも参加し地域の協力を得られるように努めている。	訓練では、あわててしまう場合や居室の利用者が避難済みか否か迷ったことを課題と考えており、職員誰もが対応できるよう想定場所や時間帯を変えて訓練を重ねることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い・言葉がけに対しては注意するよう指導しています。 介助に入る際も必ず声をかけてから行うよう心がけています。	職員が居室に入る際は、声かけとノックを必ず行い、ドアの開け閉めも静かにするなど利用者のプライバシーに配慮した対応が取られている。排泄支援も声掛けを利用者の耳元で行い、共用スペースから見えないトイレにさりげなく誘導していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意向を伺いながら、希望に添うよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで、居室やホールで自由に過ごされています。 自己決定が難しくなってきた方に対しては、なるべく皆さんと共に時間を共有できるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時には、服を選んでいただきながら準備しています。 行事のときにはお化粧をしたり、普段と違う洋服を着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理方法や旬の食材等を話題に楽しい時間になるよう心がけています。 片付けやテーブル拭きは声をかけなくても動いていただいています。	食事の好みは職員が普段の会話の中から聞き取り献立に反映している。食材の購入も希望する利用者が同行したり、洗い物や後片付けも一緒に行っている。食事は利用者と職員と一緒に同じものを談笑しながら食べるなど美味しく食べる雰囲気を作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせた食事形態にして提供しています。水分は摂取量が分かるよう記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っていただき、介助が必要な方には職員がしあげ磨きをし清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄間隔を把握し、お声かけや誘導を行っています。	生活記録シートにより利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行うことにより、日中のオムツ利用者は一人だけとなっている。なお、職員は利用者の表情や行動の変化を早めに把握することに努め、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳の提供・体操のお誘い等、薬だけに頼らない方法も取り入れ、それぞれの排便間隔も把握しながら便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を考慮しながら入浴の確認をしています。併設する事業所の機械浴も利用し、安全に入浴できるよう支援しています。	入浴は週2回から3回行い、主に午前中に行っているが、利用者の要望で夕方に入浴する等希望に対応している。また、重度化した場合、隣接する小規模の機械浴を使い、安全に配慮した入浴支援が行なわれている。なお、入浴を拒否する場合、下着の交換を理由に浴室に誘い自然に促されて入浴につながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間はそれぞれのペースで行っています。介助が必要な方には、本人様の意にそった支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化は速やかに主治医に報告・相談をしています。薬の変更の際は、職員全員に変更理由・用法・容量等を詳しく周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	関わりを持ちながら、若い頃の話や要望を伺い、その方の誕生会には思い出を再現したり、楽しみに繋がるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力を得ながら個別での外出はありましたが、事業所での外出は少なかったと反省点です。今後の課題でもあります。	2月から3月にかけてはインフルエンザのため外出を控えていたが、正月には近くの神社へ初詣に行き正月気分を味わっていただいた。また、彼岸には家族と一緒に墓参りをしたり地域で開催される敬老会へも参加している。また隣の小規模多機能型居宅介護事業所の行事に出かけ、交流する機会もあり気分転換につながるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の希望があれば、お預かりしているお金から精算していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的な面会がある為か、電話をかけたい希望はあまり聞かれませんが、希望があるときにはかけて頂きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、季節の花や壁飾りで季節を感じて頂く工夫をしています。	利用者が日中の大半を過ごす共用スペースは、桜や梅など季節の花を見ることが出来る広い窓がある開放的な空間となっており、テレビが置かれている一角は畳敷きで利用者が昼寝をしたり座って洗濯物をたたんだりする家庭的な雰囲気のある場所となっている。また、周囲の壁には誕生会の写真や地域のお知らせが掲示され、居心地の良い環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置や、席替え等で利用者様同士の交流には気を配っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅で使用されていた座椅子等を持ち込んで頂いたり、必要と思われるものをご家族様に相談しながら、居心地の良いお部屋になる様配慮しています。	居室には、利用者が自宅で使用していた椅子やタンス等が置かれている。家族と一緒に写真や孫の成人式の写真が飾られ、利用者がなじみの人々に囲まれて和やかに過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかるように、ご自分のお部屋がわかるように入口にわかりやすくプレートを貼りました。		